1 東北なまり

「えっ、きみ。もう一回言ってくれないかな。」
試験にあたっている先生も、ほとほとこまってしまっている様子です。
「ウーン。」

1913年（大正２年）の暮れ
富三10歳，父喜一郎41歳，弟良直５歳
酒をつくるおけを積み上げた生家の前。（左の人）

向かい側には、小学校を卒業したばかりで、まだおさない顔つきをした吉田富三少年がすわっています。富三も先生のこまっている様子を見て心細くなってきました。顔も、だんだんとうつむきかげんになってきています。

ここは、東京の府立第一中学校。そのころ日本の代表的な名門校として知られていた学校です。富三は、この中学校の入学試験を受けに来て